

IV-36

網構造を用いた都市景観設計

正会員 三浦 行政

1. 都市を形造る要因

都市景観の容姿は、内部組織と外部連結との集積で表現され、その形は時代を反映し年の経過と共に変革する。都市の変遷過程にあっては、ある種の物の出現を受け入れた社会構造の活動に相応しい姿を映し出す。高度情報化時代の発達に伴い、現在の商業主導型の都市は住居を主軸とした都市型へと推移は加速される。

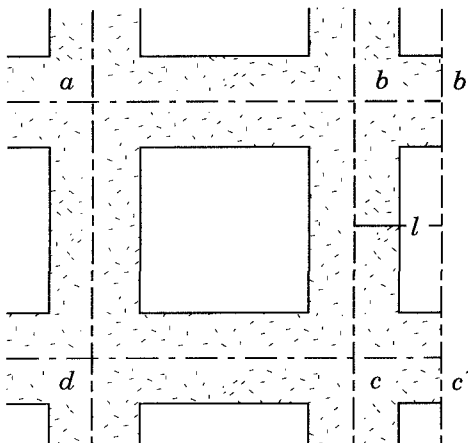
2. 都市が具備する要件

都市としての要件は、暮らし向きの良さに加えて、関心が高まっている地球温暖化防止対策の目標を備えると同時に、住み替えの撰択が容易な形態づくりが求められる。これらを受け入れた都市のあるべき姿として、生活上の建物とそれを取り巻く空間との関わりにおいて、建物の高さを揃えて空間を共有させることで、景観と環境が一体となって維持でき、人と物の流れを円滑に納めるには、建物を集約連絡処理し、都市の総括容量を計測して、住む人の年齢期に分けたライフスタイルに合せた住居を提供する。

3. デザインの構成について

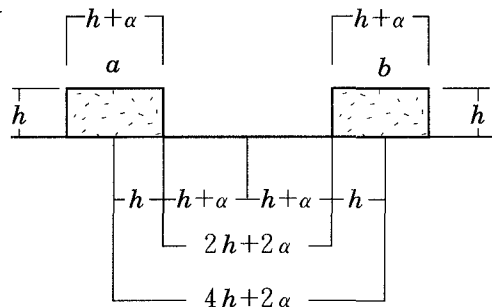
建物の集まる領域では、建物の形に見合った空域とのつり合いが景観上の意味を持つ、すなわち、景観的に見て好ましい空間環境は、都市にとっては抵抗量は少く済み、その反面経済損失量を増す結果になる。その調整をデザインを通して解消する。都市全体像としての建物高さや空地巾との相互間での空間設計では、建物の高さ数値の寸法に従って網構造で統一する。図-1

図-1 網構造標準型 $l=0$



配置図
 建物部分
 空地部分
 躯体中心線

① 網中部 $\alpha = h$



姿図
 h 建物高さ基準数値
 α 空地・容積補正係数
 a, b, c, d 正方形網目区画
 a', b', c', d', l 長方形網目区画

4. 試 算

図－2 1平方軒の網構造

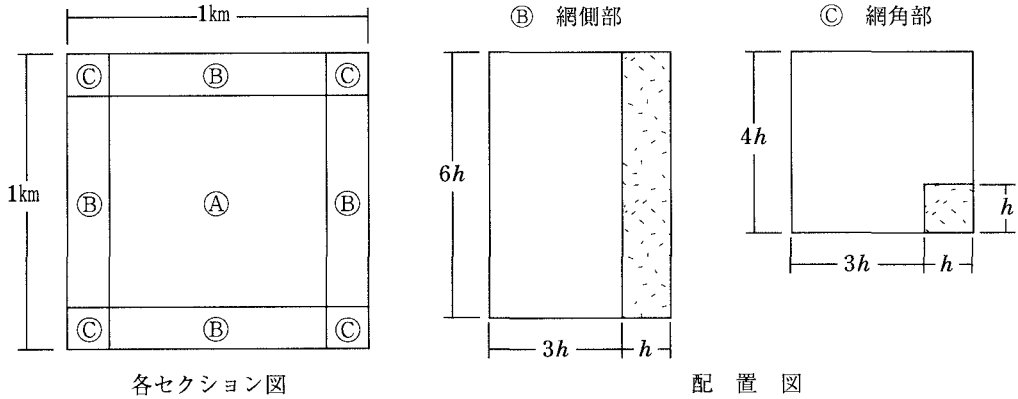


表	区 分	網目部分	網目面積	空地面積	躯体面積	躯体容積
－ 1	網目 1 個 当たりの 算 式	Ⓐ	$36 \times h^2$	$16 \times h^2$	$20 \times h^2$	$20 \times h^3$
		Ⓑ	$24 \times h^2$	$18 \times h^2$	$6 \times h^2$	$6 \times h^3$
		Ⓒ	$16 \times h^2$	$15 \times h^2$	$1 \times h^2$	$1 \times h^3$
－ 2	網の大きさ 1 平方軒の 算 定 $h: 20m$	Ⓐ $\times 49$	705.6	313.6	392.0	7840.0
		Ⓑ $\times 28$	268.8	201.6	67.2	1344.0
		Ⓒ $\times 4$	25.6	24.0	1.6	32.0
		計	1000.0	539.2	460.8	9216.0

Ⓐ：標準型 ⒷⒸ：1平方軒の場合

1平方軒の網構造の範囲図－2の単一都市を想定し、建物高さを20mとし表－2の結果が得られる。住居区を総床面積の3分の1とし、さらにその2分1強を居住専用に1人当たりの床面積を20m²として2万人を収容でき、1ha当たり200人の居住となり、実質的には付随用地を同数の100haを要したとしても、1ha当たり100人の生活圏になる。

住居区を多く取るときは、区分割合比を増すよりも長方形網目とした方が有利となる。しかし、地域が変動を生じた場合は、正方形網目の方が普遍性で安定したデザインと言える。

5. 結論

今日の不動産の権利態様は、福祉、医療制度の充実に伴い、高齢者が不動産を換金処分する機会は減少傾向にある。相続時においても家督制度の単独持分から財産分与の細分化で市場への出廻りは鈍り、そのため不動産の流動性の衰退原因となっている。そこで不動産の権利譲渡を円滑処理して、土地取引の沈静の活性化方策として、地域間で地域協定を結んで権利変換を促進させ、必要な資金調達は積立方式による民間資金を運用し権利取得に当てる。

都市は長い歳月を掛け成長するので、そのため改造には抵抗を伴うが、環境が主役の時勢にあっては、許容にも限界があり、その時期を逸すると都市は急速に機能が停滞し、ひずみが拡大しないうちに撰択に迫られる。それは土地の有用性の切り替え時でもある。